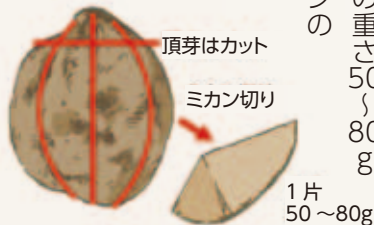




元気やさしい 山イモ栽培

① 種イモの準備

種イモは、形の良いものを選びます。1個300～400gの種イモを用い、1片の重さ50～80gになるようミカンのような型に切断します。



② 植え付け

元肥として野菜有機S282を100g/m²を施用し、畝づくりをします。1条植えの場合ほうね幅90cm×株間30cm、2条植えの場合ほうね幅150cm×株間36cmとなるようにします。

植え付けは、平均気温が15℃以上になるころを目安に植え付けます。深さ7cm～8cmの穴を掘り、切断面を上にして(表皮部が下)植えつけます。覆土は1cm～2cm程度とします。

③ 芽かき

植え付け後、20日過ぎから1か月すると出芽がはじまります。

1株1本仕立てとし、1株から2本以上出芽した場合は、成長の良い芽を1本残して他の芽は間引きします。

④ 支柱立て

ツルの高さが1mになれば、1.5m～2m間隔に支柱を立てます。ヒモを2段に張り、つるが伸びてきたら誘引します。

⑤ 1回目追肥

6月下旬に株間に1回目の追肥として燐硝安加里S604を30g～40g/m²を施用します。

⑥ 敷きわら

梅雨明け後は、乾燥防止のために敷ワラします。



▲成育中のようす

⑦ 2回目追肥

7月下旬、株間に2回目の追肥として燐硝安加里S604を30g～40g/m²を施用します。

⑧ かん水

梅雨明け後から9月上旬までは、圃場が乾燥しないようかん水を行います。乾燥は、収穫量とイモの形に大きく影響します。特に、圃場の乾燥が続いた後、一度に大雨が降り土壌の乾湿差が大きくなるとイモの形が悪くなるため、乾燥時には軽くうね間かん水を行い、土壌水分を一定に保つことがポイントになります。

⑨ 収穫

収穫は秋になります。ツルが完全に枯れあがってから収穫をします。収穫は晴天日にイモを傷つけないように掘り取りましょう。



新コーナー 6月号から
農業Q & A
皆さんから作物に関する質問を募集します。
14ページのパズルのあて先までご応募ください。

農業用廃プラスチック回収について

農業用プラスチック類は、産業廃棄物に該当するため、責任をもって処理する必要があります。今回、管内の農家の方々を対象に、農業用廃プラスチック類の一括処理を実施します。



第1回 5月27日(土) 9:00～11:30

伊吹カントリーエレベーター・神照カントリーエレベーター

第2回 6月3日(土) 9:00～11:30

近江カントリーエレベーター・長浜カントリーエレベーター

第2回 11月下旬頃
各カントリーにて
計画しています。

対象となるプラスチック ○農業用ポリ ○育苗箱 ○畔波シート ○肥料袋 など

※廃タイヤ・農薬のガラス瓶・中身が残っている肥料袋などは回収することが出来ませんのでご注意ください。

当日、委任状兼口座振替依頼書がない場合、または記入漏れがある場合は受付できませんので、ご注意下さい。書類については各支店窓口にございます。